

NPO・草の根活動**コリアボランティア協会
—民族、国境、ハンディを越えて—**

市民フェスタおおさか (05.10.23) へ参加

コリアボランティア協会は、1994年1月の立ち上げ以来、「民族、国境、ハンディを越えて」をキーワードにあらゆるボランティア活動の実践に取り組んでいます。活動内容は、高齢者・障害者（注）の日常生活支援、阪神大震災での被災者支援、生野コリアタウンフィールドワークおよびボランティア研修の受け入れ、ハングル教室、各種イベントでのバザー出店、ニュースレターの編集発行作業等々です。

当協会では、社会的弱者の立場を基本にした問題意識で以上のような活動に取り組んでいます。およそ社会問題と

呼ばれるものは、個別具体的な問題の集合であり、解決のためには二つのアプローチがあり得るでしょう。一つはシステムそのものに手を加える社会的な改革であり、もう一つは個別の問題に対処する草の根の取り組みです。この草の根の取り組みが個別的な範囲だけで完結せずに、社会的な問題として捉え返されることが重要だと思います。当協会も、そうした“個別の問題の社会化”をめざして取り組んでいます。

高度経済成長が終わって久しい昨今、人々の価値観も揺らぎを見せています。何が大切で何が幸福かが多様化し、ある意味で混沌とした様相を呈しているでしょう。こうした状況の中、「共生」という考え方が根付かなければ、違う価値観の人を互いに排除し合う殺伐とした社会になってしまいます。どんな形でも結構です。多様性を認め合う実践に加わってみませんか。

連絡先

〒544-0033 大阪市生野区勝山北3-8-31
TEL: 06-6717-7301 FAX: 06-6717-7302
ホームページ: <http://korea-v.com/>

（注）「碍」という漢字のもつ意味は「さまたげる、じゃまをする、障壁でさえざる」ことです。障害をもつ当事者からみて、自分たちの周りに物理的・心理的な壁が張り巡らされていることを、「障害者」ということばを使って表しています。

教材紹介

人権啓発ビデオ (2005年作品) 今でも部落差別はあるのですか？ ～マイナスイメージの刷り込み



2003年3月末をもって同和对策事業に関する特別措置法が失効し、一般施策のなかで同和問題の解決をはかる時代になった。しかし、同和地区の環境改善により差別現象が見えにくくなったことと、特別措置法失効のイメージが結びついて「差別

がなくなっているのではないか」という誤解を招いているようです。

部落差別は、誰から伝えられ、どういふうに伝播していくのか？部落差別を温存してきた社会システムとそれを支えてきたサイクルを考えあう問題提起ビデオ。ドラマ部を視聴した後「かるがもシート」や「乗り越えシート」に記入してグループ討議をし、学びを行動化するための新しいタイプのビデオ教材です。

第1部/ドラマ

ドラマ構成による問題提起

絵本作家の卵・秋江は、同和問題をテーマにした子ども用の絵本づくりを依頼され、シブシブ勉強することとなった。多くの人と出会い、話を聞くうちに「アッ、あれが差別だったとは!」。いったん、差別に気づくと驚くほどたくさんさんの差別があることに気づく。描こうとした「かるがも」の姿は私自身だった」と秋江は痛感しながら、次第に目覚めていく…。

第2部/解説

ドラマを再現しながら市民意識調査データをもとに解説。同和地区への偏見から生み出されるものだけが差別ではなく、現代の部落差別は「触らぬ神に祟りなし」というような「避ける」という忌避意識」のなかにあるのではないだろうか？

市民意識調査や多くの報道記事などを参照しながら、今、もっとも緊急の人権課題は何であるのかについて問題提起し、解説する。

●所要時間：ドラマ部/約25分、解説部/約13分

VHS/カラー/38分(字幕入り)、価格 35,000円+消費税

企画 人権啓発ビデオ制作委員会(社)部落解放・人権研究所/大阪府/大阪市/堺市
問い合わせ先

内容に関すること→(社)部落解放・人権研究所啓発企画室

TEL.06-6568-1301 FAX.06-6568-0714

販売に関すること→(株)解放出版社

TEL.06-6561-5273 FAX.06-6568-7166